

1. 基本的な考え方

魅力ある学校づくりは、現代に求められる学校像ではないか。そうした視点に立つと「本当の楽しさ」を如何にして追い求めるかが肝要となる。

主体的な学びの構築のためには「楽しさ」が根底に必要である。同時に、その「楽しさ」が共有できるようなものに洗練されることも必要である。こうした児童の持つ「楽しさ」が、教職員や保護者、地域にとってもやりがいや「楽しさ」として醸成されていこう。これを「本当の楽しさ」と位置づけ、学校総体で取り組み、「本当の楽しさ」を追い求める教職員集団を形成する。

また、本校は若手教職員の割合が多く、キャリアのある教職員とのバランス感覚に富んだ学校経営をしていく必要もある。キャリアのある教職員をミドルリーダーとして位置づけ、ミドルアップ・ダウンマネジメントを取ることで、あらゆる教育活動等が円滑に行えるように企画したり、児童対応等が迅速且つ丁寧に取り組めたりできるような体制を構築していく。こうした体制の上でこそ、児童一人ひとりに十分な愛情を注ぐことが可能となるだろう。

さらに、随時、PDCA サイクルで確認しながら一つひとつの教育活動を「凡事徹底」し、時には臨機応変に対応したり指導につなげたりしていく柔軟さも兼ね備えた、しなやかな学校経営を行っていくことを基本としたい。

2. 教育目標

「本当の楽しさ」を追い求める子の育成

3. めざす子ども像

【学力】わかる喜びを見出す子 【人権】つながりを醸し出す子 【キャリア】しなやかに歩み出す子

4. 努力目標及び具体的な方策

(1)「本当の楽しさ」を追い求める子の育成のために

【学力】わかる喜びを見出す

- 基本的な授業構成(課題明示→考えの交流→問題設定→考えの交流→振り返り)を念頭に置いた授業づくりを行い、主体的な対話を通じた学びを構築していく。
- 主体的に学びに向かう「しかけ」として5W+1Hで課題提示し、そこに至るまでの授業の「最初の5分づくり」を必ず考えてから授業に臨み、児童の表現力を向上させる。
- 子どもの「声を聴く」「姿を見る」ための具体的な手法を凡事徹底する。
- 授業づくりに向けた研修を積み重ね、示範授業や研究授業を通してわかる喜びを児童が見出す授業づくりに努める。
- 授業づくりを通して「自立と自律」が見える学級づくりを行う。
- 全国学力・学習状況調査やみえスタディチェックの結果を分析し、指導改善に活かす。
- 基礎学力が剥落しないように、継続した朝の学習「ゴールデンタイム」を充実させる。
- 家庭学習や読書に児童が主体的に取り組めるような「しかけ」をつくる。

【人権】つながりを醸し出す

- 互いの成長を喜び合い、児童一人ひとりの思いや考えを十分引き出したなかまづくりを行う。
- 教職員が見通しを持って取り組むことで、意図的・継続的な「出会い」学習を行う。
- 児童の思いや効果的な「出会い」学習を活かし、教職員が自らの経験に基づいた思いを伝える。
- 部落問題学習・差別解消三法・言葉の学習等、正しいことを知る学習を計画的に行う。
- 「差別を許さない」心情を育み、自ら判断して行動できる力を育む。
- 特別な支援を要する子や外国につながるのある子たち等の合理的な配慮や日本語指導を含めた指導・支援方法の充実を、随時、検討しながら継続的に行う。

【キャリア】しなやかに歩み出す

- 自尊感情を高められる「あいさつ」を充実させる。
- 毎日の小さな達成感の積み重ねにより、次につながる自らの姿を追い求められるようにする。
- 様々な体験や見学調査を有効的に活用し、児童が「キャリアビジョン」を持てるように促す。
- 成功体験や失敗経験を経て、しなやかに自らの「キャリアビジョン」をえがくことができる。

(2)「本当の楽しさ」を追い求める学校づくりのために

【安心安全】健康で安心・安全に過ごす

- コンプライアンスミーティングを計画的に行い、コンプライアンスの推進を図る。
- 安全や健康に関する習慣化や体力の増進を図る手立てを継続的に行う。
- 食教育・安全教育・保健指導等の充実を図り、意図的・計画的な取組を行う。
- 交通ルールや「上野北小のやくそく」を守り、みんなが快適に過ごすための自らの役割を自覚させる。
- 学校施設の丁寧な使い方や、清掃活動の自発的な取組等、児童に主体性を求める。

【協働】子どもの成長をわかち合う

- 「動きが見える」学校にするため、学校や学級からの情報発信を積極的に行い、HP については毎日更新を基本とする。
- 保護者や学校運営協議会からの提言や意見を学校運営に取り入れていく。
- 「ながら見守り」等、保護者や地域が負担感なく、児童の安全を見守れるような取組を推進する。

【労働環境】活気があふれる

- 学校安全衛生委員会を学期ごとに2回開催し、総勤務時間縮減等について協議し、成果と課題を明らかにした上で、具体的な方策をとる。
- 下記重点目標を設定し、具現化を図る。

◇組織を見直し会議時間短縮等につなげる	◇毎週水曜日は定時退校日
◇月一回のスーパー提示退校日の設定	◇長期休暇が取りやすい計画づくり
◇事前決済やPC活用による準備時間削減	◇19時を超える際には教頭へ報告
◇一人あたりの月平均時間外労働 30h 以下	◇年 360hを超える時間外労働者数 0 人
◇月 45h を超える時間外労働者数 0 人	◇一人あたり年間休暇所得日数 15 日以上
◇放課後開催 60 分以内の会議60%以上	◇19時までに退校した月あたり日数 20 日以上

「本当の楽しさ」を、本校の合い言葉に！